

拉致被害者救出 諦めない姿勢を

家族会・飯塚代表ら講演

富岡

北朝鮮による拉致問題を考える講演会(県、富岡市など主催)が12日、同市生涯学習センターで開かれた。市民ら約500人が、特定

失踪者問題調査会の荒木和博代表と拉致被害者家族連絡会の飯塚繁雄代表の講演を聞き、被害者救出に向けて声を上げていく重要性を

妹の田口八重子さんの写真を掲げ、協力を呼び掛ける飯塚代表



共有した。

荒木さんは1977年に拉致された横田めぐみさんを紹介し、拉致は内陸の群馬でも起きる可能性があるとした。「救出に向けて国民の意思が政府を動かす。機会あることに拉致問題を考えて」と

呼び掛けた。

都内で妹の田口八重子さんを拉致された飯塚代表は「妹は今も助けを待っている。怒りの声を上げ、救出を諦めない姿勢を北朝鮮にぶつけてほしい」と訴えた。

妹の田口八重子さんの写真を手に講演する拉致被害者家族連絡会代表の飯塚繁雄さん＝富岡市で



「救出最優先」力込め

拉致被害・家族会 飯塚代表、富岡で講演

北朝鮮による拉致被害者、田口八重子さんの兄で拉致被害者家族連絡会代表の飯塚繁雄さん(78)が12日、富岡市の市生涯学習センターで講演。「早く助け出してほしいという怒りの声を日本政府にぶつけ、解決に向けてあきらめない姿を北朝鮮政府にもぶつけていきたい」と述べ、問題解決に向けた世論盛り上げへの協力を訴えた。

【鈴木敦子】

世論盛り上げへ協力訴え

田口さん(当時22歳)は1978年、東京・池袋で行方不明になった。大韓航空機爆破事件(87年)の実行犯だった北朝鮮元工作員の供述で、拉致被害者と判明した。だが、飯塚さんによると、当時、田口さんが事件に加担したかのような報道も多く、「加害者ではな

く、被害者なんだと(周囲に)理解してもらうのに2年も要した」と振り返った。

2014年に日本と北朝鮮の両政府が再調査で合意してから、こつちやうく状態が続いている現状については「もう待てない。核・ミサイル問題とは切り離し、助けを待つ被害

者の救出を最優先してほしい」と訴えた。

また、講演会後に記者会見し、「若い世代は拉致問題を知らない。政治的イデオロギーとは関係なく、事実が事実として学校教育の現場で伝える時間があればいい」と話した。「救

う会・群馬」の大野敏雄事務局長も「県内で拉致被害者支援に実際に取り組む人も減ってきて、このままでは拉致問題が風化してしまう」と危機感を募らせ、

若者向けの啓発が必要との認識を共有した。講演会では、ドキュメンタリー「拉致 私たちは何故、気付かなかったのか!」も上映された。